

〈資料一 裁許文釈文〉

相易鎌倉郡津村腰越村与同国同郡片瀬村魚獵場出入裁許之事

津村腰越村訴趣、享保十二年龍口寺輪番八箇寺と及出入裁許之上地境相立処、去ル子
年三月兩村地先へ難船之船板流寄を片瀬村にて取揚、且片瀬村ハ地引網獵いたし、津
村腰越村ハ沖獵いたし来段申之、片瀬村答趣、享保之裁許雖有之其刻片瀬村ハ論外故
不拘、字正力坊より南海際まで境、西ハ片瀬村地内に付船板取揚由、片瀬村ハ地引網
獵いたし津村腰越村ハ沖獵いたし来段ハ無相違旨申之、右論所絵図面を以就難決御
普請役御代官小笠原友右衛門手代致地改処、村境に付猶又御代官蓑笠之助差遣逢吟
味處、津村腰越村申立裁許絵図三ツ星之定杭茱萸木より濱高場通りに当り、夫より江
嶋弁天鳥居南へ見通由、方角不引合裏書にも不相見、村境定杭論外に可立無謂、論所
ハ津村腰越村野錢場と申儀無証拠難取用、片瀬村にて古境、法源寺道より龍口寺門前
百姓長兵衛屋敷通、夫より鎌倉往還道向百姓吉十郎屋敷裏通藤澤通路細道際より字
正力坊、津村腰越村にて字下町濱と申場所へ見通、夫より南浪打際まで片瀬村地内と
雖申、吉十郎屋敷裏角より字正力坊ハ午未に相当夫より南浪打際まで可見通様無之、
是亦申分難取用、先裁許之境墨引山形も不令符合、右裁許にて龍口寺并門前百姓とも
も津村腰越村之地附に雖成、龍口明神之社地ハ其節為論外、明神ハ津村腰越村両村鎮
守にて津村地内之由、別当同村寶善院宥仁一同雖申之、津村腰越村之鎮守までにて津
村地内と申証拠不分明是又難信用、村境ハ同郡極楽寺村・手廣村・笛田村・片瀬村と
津村腰越村ハ山峯弦通を境、片瀬村ハ西南に當り津村腰越村ハ北東と相分處、本蓮
寺・法源寺・龍口寺山境より出、山之峯弦を片瀬村と津村腰越村境之由雖申、全出山
にて一体之峯統、東南へ法源寺道を下り村境に無相違、龍口寺ハ片瀬村地続にて其上
輪番八箇寺之内本蓮寺ハ嘉元年中之開基にて夫より追々開基之寺々に有之、享保之
裁許以前までハ片瀬龍口寺と唱札守等ハ勿論都て其旨認来段申之、寛永・正保・正徳・
享保之鐘・半鐘・鰐口等之銘、片瀬龍口寺惣堂式常住と有之、津村腰越村より品々証
拠に申立趣、何も元禄以来兩村にて認置書付故難取用、寺社本末帳に片瀬龍口寺と有
之上ハ、津村腰越村之地内と申儀取用に不相成龍口寺ハ片瀬村に無相違、然ハ明神社
地東西南北ともに片瀬村に包り、延宝二年検地帳に字龍口下名請百姓有之、字令符合
上ハ津村地内之由難立、依之衆儀之上今般定趣、龍口寺境内ハ龍口明神鳥居東脇より
北岩角へ見通、夫より西北東山峯弦通、法源寺道へ引、下右道通西へ廻り、龍口寺門

前百姓長兵衛屋敷より鎌倉往還向吉十郎屋敷裏角、夫より西へ藤沢通路之細道、片瀬
村申立古境より江嶋道之四辻より仁兵衛屋敷打廻、西之方八間三尺余・北之方八間式
尺余・東之方八間、夫より又藤澤通路之細道へ出、鎌倉往還出口より往還向明神鳥居
東脇までを是まで之通龍口寺境内と心得、明神社地ハ北東ハ龍口寺境内を限、西ハ鳥
居脇片瀬村百姓平右衛門屋敷通、北明神社下より西山根腹通り片瀬村秣山境より北
山峯龍口寺境内境へ引登社地境と心得、論所ハ門前百姓吉十郎屋敷裏角藤沢通路之
細道際、片瀬村申立古境より相手方にて字正力坊訴訟方にて字下町濱と唱場所より
午未へ浪打際まで見通、西之方片瀬村可為地内是まで建置石之定杭取払、津村腰越村
にて芝地へ植置小松ハ津村腰越村へ伐採、去子年流寄船板ハ片瀬村へ取揚、以来龍口
寺并門前百姓、次に龍口明神社地とも片瀬村分と心得、門前百姓宗門帳諸觸とも片瀬
村にて致進退、津村腰越村ハ沖獵いたし片瀬村ハ地引網獵いたし相互に入会段ハ無
相違間仕来之通可心得条裁断畢、仍絵図面引墨筋各加印判双方并龍口寺輪番へ下授
間、永不可遺失者也

(一七七三)

御用方無加印

安永二巳年五月十三日

川越前

(川井久敬 越前守 勘定奉行)

松対馬

(松平忠郷 対馬守 勘定奉行)

安弾正

(安藤惟要 弾正少弼 勘定奉行)

御用方無加印

石備後

(石谷清昌 備後守 勘定奉行)

曲甲斐

(曲淵景漸 甲斐守 北町奉行)

牧大隅

(牧野成賢 大隅守 南町奉行)

土美濃

(土岐定経 美濃守 寺社奉行)

松伊賀

(松平忠順 伊賀守 寺社奉行)

牧越中

(牧野貞長 越中守 寺社奉行)

土能登

(土屋篤直 能登守 寺社奉行)

〈資料2〉

相模国鎌倉郡竜口寺と同国同郡津村・腰越村地境出入裁許之事

竜口寺輪番八箇寺訴候趣、境内之芝地江去々年津村名主方より致家作候、此地者門前百姓も致居住、当寺境内無紛旨申之、津村・腰越村名主答候者右之芝地両村野錢場二而往古堂鋪寄附之砌、野場之印二残置由申之、右論所就不分明伊奈半左衛門家来岩手藤左衛門手代差遣地改為致候処、双方口上而已二而可取用証拠書物一切無之候、雖然論所続二竜口寺門前百姓家式軒五拾年余住居候得者、論所者竜口寺境内無紛候、相残而鎌倉道南側二有之拾壹軒之百姓儀も、両村より野錢場と指といへとも、此輩竜口堂人足役計二而、両村江者年貢諸役不相勤、且野錢差出事も無之并宗門帳八箇寺より致来上者、是又竜口寺門前百姓二而野錢場と申段難相立候、次二ハケ寺より鐘之銘二依而、竜口寺と片瀬村分之由雖申、片瀬・津村・腰越三ヶ村差出帳二銘々竜口寺相載り有之、其上片瀬村者各別二境相立、堂敷門前共津村・腰越と地続二而過半入込候得者、寺地者両村可為地附候、依之今般裁断之趣、論地者竜口寺可支配之拾三人之者門前百姓二相決条寺役如元相勤、宗門帳者ハケ寺より前々之通別帳二而両村江相渡、諸触等者津村・腰越より可申遣候、論地之津村名主平兵衛家作者可取払之、竜口寺境内之儀北者峯通り、西者鎮守社地之上峯を限り、東者法源寺道を可限、南者此度之論所同続之芝間并百姓家喜兵衛・長兵衛・吉十郎屋敷より界藤沢通路之細道を限り、門前仁兵衛家裏式間相除ケ、夫より西片瀬村境迄之地所可為境内候、右細道より南浜之方芝地者片瀬境を限り津村・腰越両村可支配之、為後鑑絵図面地境引墨筋、各加印判令裏書双方江下授間永不可違失者也、

享保十二年丁未九月廿五日

日光見分二付無加印

稻 下野

久大和 印

御用方無加印 覚 播磨

御用方無加印 駒 肥後

諏 美濃 印

大 越前 印

小 信濃 印

太 備中 印

黒 豊前 印

(藤沢市史2資料編 岩本亮一郎氏所蔵文書)

〈資料3〉

竜口寺境内出入之事

竜口寺境内境江引登社地境と心得、論所ハ門前百姓吉十郎屋敷裏角藤沢通路之細道
際片瀬村申立、右境より相手方にて字正力坊、訴訟方にて字下町浜と謂場所より午
未へ浪打際まで見通、西之方片瀬村地内たるべし、是迄建置石之定杭取払津村腰越
村にて、芝地江植置小松ハ津村腰越村へ伐採、去ル子年流寄船板ハ片瀬村江取揚、
以来竜口寺并門前百姓次に竜口明神社地とも片瀬村分と心得、門前百姓宗門帳諸触
とも片瀬村にて致進退、津村腰越村ハ冲獵いたし、片瀬村ハ地引網いたし、相互に
入会段ハ無相違間、仕来之通可心得条裁断畢、例絵図面引墨筋各加印判双方并竜口
寺輪番へ下授間、永不可違失者也

安永二巳年五月十三日

御用方無加印

川 越前

松 対馬^印

安 弾正^印

御用方無加印

石 備後

曲 甲斐^印

牧 大隅^印

土 美濃^印

松 伊賀^印

牧 越中^印

土 能登^印

(藤沢市史2資料編 岩本亮一郎氏所蔵文書)